

## 第8章 北欧と中国における職業教育

### 第1節 スウェーデン、ノルウェー、フィンランドの 中等教育における職業教育

#### I スウェーデンとノルウェーの教育制度

現在のスウェーデンの中等教育制度は、9年間の基礎学校のうえに3年間の高等学校がおかれている。前期中等教育は7学年から9学年、後期中等教育は10学年から12学年である。現在のノルウェーの学校教育制度は、7年間の初等教育のうえに前期中等教育が8学年から10学年の3年間、後期中等教育は第11学年から第13学年の3年間の高等学校がおかれている。初等教育が7年間になったのは、1997年の教育改革によって入学年齢が7歳から6歳に下げられ、義務教育年限が10年に延長されてからである。スウェーデンも7歳から義務教育が始まるが、実際には6歳からゼロ学年として入学する生徒が多いので、両国はきわめて似た教育制度となっている。

#### II スウェーデンの後期中等教育における職業教育

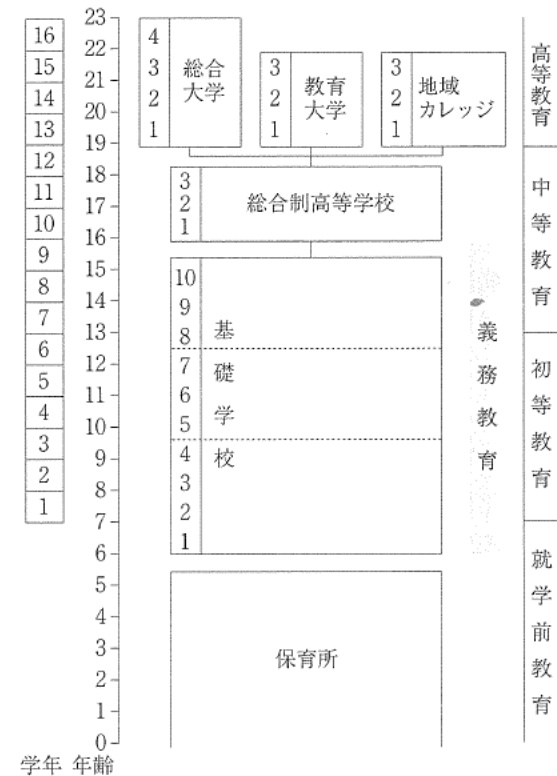
スウェーデンでは、2006年9月に左派連合政権から中道右派連合政権に政権が移行したが、2010年9月の選挙では中道右派連合が多数派を維持することに成功した。このことが高校職業教育に与える影響は無視できない。というのも2008年9月から高校職業教育プログラムを高等教育機関への進学の可能性が減少したとしても、よりプラクティカルな内容を重視する改革が実験的に始まっていたが、その改革がさらにすすめられることになったからである。これは1971年からの改革の流れに逆行する動きである。すなわち、1971年の改革によってそれ以前の多様な学校（gymnasiet, yrkesskolan, fackskolan）を「総合

資料8-1 スウェーデンの学校制度



出典：奥田真丈・河野重男監修，安彦忠彦編『現代学校教育大事典』（ぎょうせい，1993年）p.303。

資料8-2 ノルウェーの学校制度



出典：奥田真丈・河野重男監修，安彦忠彦編『現代学校教育大事典』（ぎょうせい，1993年）p.421。

制高等学校」に統合し，その改革の段階では2年制から4年制までの多様なコースのものが存在していたが，1992年からはこれらを3年制の14のプログラムに再編成し，すべてのコースから大学への進学を可能にするようにカリキュラムを改革した（これについては，本所恵「スウェーデンにおける総合制高等学校における教育課程改革——履修方式の転換に焦点をあてて——」『カリキュラム研究』第17号，2008年，pp.1-14を参照のこと）。以下に職業プログラムのカリキュラムの1つの例（福祉プログラム）を資料8-3に示す。

2010年9月の選挙結果により，これらの1970年代から進められてきた改革

に対する逆のベクトルへの改革が一層すすめられた。すなわち，高等学校の職業教育プログラムについては，主として最初の2年間は学校での学習，その後の2年間は職場での実習というカリキュラムに変更することによって，高等教育機関への進学の可能性がほとんど閉ざされることになっても，労働現場での必要性に 대응するような教育・訓練を重視する方向に大きく転換した。

このような転換の背景については，少なくともこの40年間の高等学校の職業教育に関する政策の推移とその実態について検討しなければならない。これについての詳細な検討は今後の課題とせざるをえないが，アンダーシュ・ニル

資料8-3 プログラム制におけるカリキュラム編成例 福祉プログラム  
(数値は高校単位数：3年間で計2500単位)

中核教科	750	専門教科		1350	
数学 A	100	プログラム必修科目	650	選択科目	700
スウェーデン語 A	100	労働環境と安全	50	(推奨履修科目)	(科目例)
スウェーデン語 B	100	パソコン	50	英語 B	100
英語 A	100	倫理と生活問題	100	数学 B	50
保健体育 A	100	薬学基礎	100	歴史 A	100
社会 A	100	人間の社会と文化	100	プロジェクトと企業	50
宗教 A	50	心理学 A	50	組織とリーダーシップ	50
自然科学 A	50	福祉介護	200	数学 C	100
芸術	50			リハビリテーション	100
				社会福祉	150
				選択薬学	50
				小児医学	200
				家庭医学	100
				看護	100
				病理学	200
				歯科学	200
				外科	200
個人選択	300	専門教科の中で、15週間			
(専門科目も選択可能)		の職業実習を実施する			
プロジェクト学習	100				

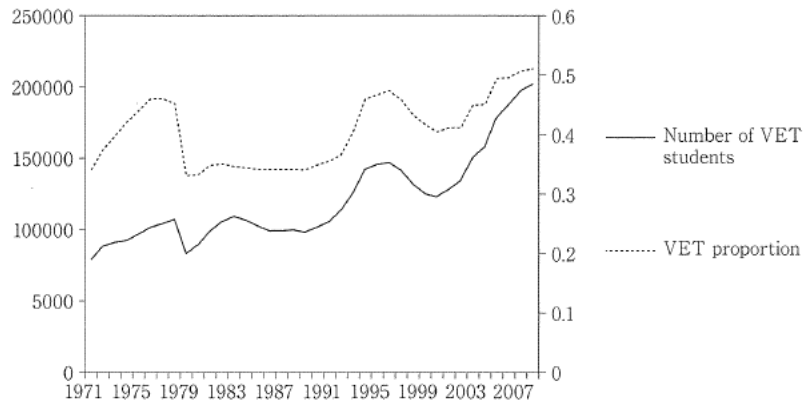
出典：本所恵「スウェーデンにおける総合制高等学校における教育課程改革—履修方式の転換に焦点をあてて—」  
『カリキュラム研究』第17号、2008年、p8より引用。

ソン（ Lund 大学）が作成した、高等学校で職業教育を受けた生徒数と全高校生に占めるその割合の推移を資料 8-4 に示す。

この資料 8-4 から、後期中等教育において職業教育を受けた生徒の数や割合は絶えず変化してきたことがわかる。2008年では50%を少し超える割合の生徒が職業教育をうけているが、この背景として、アンダーシュ・ニルソンは、スウェーデンの職業プログラムの対象範囲の広さを指摘する。すなわち、テクニカルな分野だけではなく、商業的な分野や家政的な分野、ドラマや介護や農業的な分野も含んでいること、さらに職業プログラムの構造が「ゆるやか」で「正しい」選択も「誤った選択」も可能にするような生徒の安易な選択も引き起こす可能性があることをして指摘している（Anders Nilsson “Vocational education and training in Sweden”）。

それとともに職業プログラムの大きな問題は約30%にも及ぶ中退率の高さである。この問題が2008年9月から開始された2年間の学校での学習のあとで2年間の職場での実習という試行が始められた最大の理由である。このような2+2モデルは、ノルウェーでは1994年から後期中等教育における職業教育の基本的な形態になっている。

資料8-4 職業教育 (VET) をうけた生徒数とその割合 (スウェーデン)



出典：Anders Nilsson “Vocational education and training in Sweden”.

### Ⅲ ノルウェーの中等教育における職業教育と2006年のカリキュラム改革

ノルウェーでは、基礎学校を修了した後は、3年間の後期中等教育を受けることができる。これには、2つの選択肢がある。1つは進学準備コースで、高等教育機関への入学準備のための普通教育科目を中心に学ぶ。他のひとつは各種の職業教育・訓練コースである。すべての生徒が後期中等教育を受ける権利を持つが、人気のある職業教育・訓練コースは施設が不足しているため、入学できる者の数は制限される場合がある。進学準備コースは3年間であるのに対して、職業訓練コースは1994年の教育改革から2+2モデル（2年間の学校での学習と、2年間の職場での実習）に基づく教育訓練システムが導入された。現在、職業科には9つの職業科コースと、3つの実践的な芸術関係のコースがある。

しかし、ノルウェーにおいても2+2モデルがうまく機能している面とそうでない面がある。すなわち、成績のよい生徒にはこの2+2モデルがうまく機能しているが、成績の悪い生徒は訓練契約を企業等と結ばず、職業訓練コースの30%が高校教育を修了できないまま、ドロップ・アウトしていく状況が存在している。

ノルウェーの1970年代以降の各産業部門の雇用状況の変遷についてみると、商業・サービス業の部門や健康と社会福祉の部門が増加してきたこと、多くの企業が、15、16歳よりももっと上の年齢の労働者を必要とするようになったこと、さらに多くの企業がより長い教育期間、より熟練した技能をもつことを労働者に要求するようになった。その結果、より多くの生徒が職業に準備するために後期中等教育機関において教育を継続するようになったが、そこでの生徒のプログラム選択が適切なものではないために、職業プログラムの生徒の30%がドロップ・アウトし、生徒のプログラム選択と社会からの要求にマッチングしていないことが大きな問題となってきた。以上の分析はビヨーン・オークレ（テレマーク大学）によるものであるが、彼はさらに次の要因も指摘している。

「1980年代からの新自由主義に影響された新しい経済システムが国際諸関係とともに国内の諸問題にも影響を与えてきた。これは、新しいテクノロジーを使うことや、いかにしてその知識を新しいビジネスや生活のなかに生かしていくか、ということだけではなく、好むと好まざるに関わらず、知識、ビジネス、金、人間の労働力さえも、新たなグローバル市場へ移行させた。この転換は、ある職業で仕事を不得、そこで成功するための特殊な技能だけではなく、文化的理解や言語やコミュニケーションをも含むところの、知識や技能に対する新しい要求を生み出した。1970年代、ノルウェーは産油国になり、オイル時代が始まったが、いまその時代は終焉を向かえつつある。ビジネスや産業発展は、この分野に特化してきた。一方、繊維産業や一般的な消費のための製品をつくる産業は他の伝統的な産業と同様に衰退していった。なぜなら、それらの産業はより知識を基盤とした産業との競争に勝てなかったからである。これは、コンピテンスや知識がますます重要になったことを意味している。今後、石油と天然ガスの産業が衰退していったときに、コンピテンスや知識が基礎として必要となるであろうが、他の産業分野ではまだそれらは形成されていない。確実なことは、まだ発見されていない分野で、多くの新しい仕事を創り出す必要があることである。これは、ノルウェーにとって最大の課題であり、おそらく多くの国にとっても同様であろう。」

これらの課題に対処するために2006年のカリキュラム改革において初等・中等教育の全教科を通して「基礎技能basic skills」を習得させることが最も重要な課題とされた。この「基礎技能」は、①言語でのコミュニケーション技能（Verbal communication）②読む技能（Reading）③書くことによるコミュニケーション技能（Written communication）④計算技能（Calculation）⑤デジタル・コンピテンス（Digital competence）から構成され、とりわけ5番目のデジタル・コンピテンスという概念は、「すべての人間が現代の社会と現代のメディアに対処するために必要になり」、2006年のカリキュラム改革で初めて登場したものである。これについてビヨーン・オークレは以下のように説明している。

「デジタル・コンピテンスに対する要求は、1990年代において仕事に対する機会を変化させるもう1つの要素となった。ノルウェーでは、1980年代初めから特別な興味をもった生徒のために初等教育と中等教育において特別なコースとしてコンピュータ・コースが導入された。しかし、数年で、デジタル・コンピテンスはすべての人が現代社会に生き、現代のメディアと対処していくために必要であることが明らかとなった。数年後には、デジタル・コンピテンスは、コンピュータについての一般的な知識から、特別なアプリケーション・プログラムを使って基本的なプログラミングをすることに発展し、さらにより複雑な文化的なスキルとなった。長年にわたる試みの後、デジタル・コンピテンスはすべての学校段階においてすべての教科において統合される基礎的な技能となると結論された。この戦略が2006年からのノルウェーのナショナル・カリキュラムで実施された。」

「デジタル・コンピテンスの内容についての明確な理解はない。それは教科によっても、生徒が参加するプロジェクトのタイプによっても変わる。デジタル・コンピテンスがそれぞれのカリキュラムにいかにつなげられているかを研究するならば、6つのカテゴリーにそのスキルを分けることができるであろう。第1に、共通のオペレイティング・システムを使用し、テキストやビジュアル・プロセッシング、計算やデータベースのための一般的なアプリケーション・プログラムを使用する“基本的なデジタル・スキル”。第2に、“デジタル・ナビゲーティング・コンピテンス”という概念で表現できるが、仕事やキャリア

に関する情報にインターネットでアクセスし、それらを探すことや注文する。第3に、「批判的考察及び評価」と呼ぶことができるが、関連する情報を探し、利用できる情報のツールや内容の質を批判的に評価すること。第4に、「デジタル・プロセッシング・コンピテンス」——それは異なる形式の情報を結合すること。たとえば、テキストと写真と映像を新しく統合された文書にすること、または情報を形づくること。第5に、デジタル・メディアを通じた相互作用の可能性は、近年大きく変化した。これは「デジタル・コラボレーション・コンピテンス」と呼ぶことができる。第6に、デジタル・メディアはお互いに接する文化や方法やマナーを含んでいる。これは、デジタル文化やマナーを議論し、肯定的な方法でお互いに会話していく方法。」

(Bjorn Aakre“Career Preparation and Selection in High School—A Norwegian Context—”『技術教育学の探究』第7号、2010年10月、pp.7-8)

さらに2006年のカリキュラムでは、「テクノロジー・デザイン」や「起業家教育」や「テクノロジーとリサーチ」という新しい教科や教育内容が導入された。以下では、後期中等教育に位置付けられた「起業家教育」と「テクノロジーとリサーチ」について説明しておく。

1 「起業家教育」 ノルウェーでは1997年から「起業家教育」が取り組まれてきたが、2006年のカリキュラム改革によって、「起業家教育」が格段に強化された。すなわち、第1学年から第13学年までの全学年で必修扱いとして、教科の枠を超えた形態で実施することになり、さらに第12学年と第13学年では選択教科(総計280時間)としても実施されることになった。

現在では、高校においてはすべての生徒が何らかの企業家教育に関する授業に出席している。富をどのように産み出し、それを効果的に運用するか、また地方自治体をより活発にする仕事をどのように作り出すか、起業家的思考をどのように職場に適用するかを示すことによって、若い人々に実際の仕事の世界にむけて準備することを目的としている。生徒はそこで学んだことを行動に移し、地方自治体に貢献する価値を学ぶ。起業家教育は、職業準備、起業家精神、財務リテラシー、経済的に力を発揮するために必要な技能を教える。どのようにビジネスを始め、ビジネスを成長させるのかを学び、職場にどのように貢献

するのかを学び、稼いだお金を効果的にどのように運用するかを学ぶ。

起業家教育においては、伝統的な教科よりも講義は少ない。多くの時間は問題解決学習(PBL)を基礎にしており、実際の問題を解決するためにアイデアを製品やサービスに発展させ、消費者によって使われる製品やサービスへと発展させる。それは、教科や内容重視型の学習活動であるよりも、より問題解決型、ユーザー指向型の学習活動である。その目的は、創造性や発明力を育成することである。

2 「テクノロジーとリサーチ」 2006年から後期中等教育(第11学年から第13学年)の普通科(general course)のカリキュラムに選択的な学習領域として「テクノロジーとリサーチ」という新しい教育内容が導入された。この学習領域は、資料8-5に掲げた3つのモジュールに区分される。

資料8-5 「テクノロジーとリサーチ」の学習領域

	主要な学習領域			
	テクノロジーとリサーチ(84時間)		若いエンジニア	若い研究者
テクノロジーとリサーチ(140時間)	デザインと製品開発			
テクノロジーとリサーチ(140時間)	研究方法	研究、テクノロジー科学	若い研究者	科学の哲学

「若いエンジニア」は、創造的で実践的な状況のなかでテクノロジーを学ぶ。これは、技術的製品について生徒が計

画を立て、組み立て、試験する。工学的な装置や材料の利用の仕方、デザインや構成にふさわしい手段の利用法を経験的に学ぶ。また、センサーやコントロール・システムを学ぶ。

「若い研究者」は、健康や環境と関連した問題を調査し、計画し、遂行し、調査結果を公表することを学ぶ。さらにシステムティックな測定と結果の分析についても学ぶ。

「テクノロジー、自然科学、社会」は、歴史的な文脈において科学の役割を研究し、理解する。さらに新しいテクノロジーの遂行と関連した、環境的、文化的、倫理的問題を評価することを学ぶ。また、技術的システムの原理や機能を研究し、理解することを学ぶ。

「デザインと製品開発」は、新たな製品の開発について学ぶ。電子回路の実

験や、自分のアイデアにもとづく製品の開発における電子回路の利用の方法、テスト、シミュレーション、形や機能の質的保証、美的、環境的機能性などを学ぶ。

「研究方法」は、自然科学の方法論を学ぶ。経験的なデータと理論との関係や、科学的なコミュニティーのなかでの知識の開発のされ方、公表のされ方について学ぶ。

「科学の哲学」は、科学の発展の背後にあるアイデアや推論、テクノロジーの役割について学ぶ。科学のなかでの議論の方法を学ぶ（“Career Preparation and Selection in High School—A Norwegian Context—”『技術教育学の探究』第7号、2010年10月、pp.14-15）。

#### IV ノルウェーにおける前期中等教育への「キャリア準備」の導入（2009年）

2009年には「キャリア準備」という新しい教科が第8学年から第10学年（前期中等教育）において選択教科として導入された。この「キャリア準備」という教科は必修教科ではないものの、2006年の改革で導入された「テクノロジーとデザイン」や「起業家教育」が独立した教科ではなかったことと対照的である。「キャリア準備」は、2009年から81の地方自治体にある学校で先導的なプロジェクトとして取り組まれてきた。この教科は、第2外国語の代替として選択可能な教科で、227時間が配当されてきた。この教科はプラクティカルな教科であり、その目的は「（前期中等教育と）初等教育とのギャップ、後期中等教育とのギャップを埋めること、生徒が自分の興味や志向にあった職業を選択することを援助すること」におかれている。さらに「労働者の役割への肯定的な態度を確立し、起業家精神を育成し、新しい仕事を創り出す積極性を育成すること」におかれている。さらに、「キャリア準備」は、キャリア準備の目的と役割に関するアイデアを与える基礎技能を重視する。この教科における「オーラル・コミュニケーションは、自分自身の技能やコンピテンスや興味、自分の選択を説明すること、他者と自分自身の経験を共有したり、説明したりすることを内容としている。書く技能は、記録を書くことや、高校のさまざま

な教育プログラムに関する文書をつくり、自分自身のキャリア選択についての理由を説明する文書を作成することを内容としている。求人への応募書類を書くことも有意義である。読む技能は、各プログラムのカリキュラム文書の学習、また教育プログラムについての情報を扱い、空いているポストについての情報を扱うことを内容としている。教育や労働市場に関する表を読み、グラフを理解することは、読む技能の一例である。計算技能は職業教育プログラムや労働市場に関する統計データを加工することを内容としている。デジタル・コンピテンスは、教育や仕事に必要なことに関する情報を集め、さまざまなタイプの仕事を分析し、会社や職業紹介所に応募書類を送ることを内容としている。」（“Career Preparation and Selection in High School—A Norwegian Context—”『技術教育学の探究』第7号、2010年10月、pp.8-9）

#### V フィンランドの教育制度

フィンランドの教育制度は、7歳から始まる9年間の基礎教育（一部の生徒は10年間）のうえに、普通科高校と職業高校に分かれ、それらのうえに大学や高等職業教育機関（ポリテクニク）がおかれている。ポリテクニク（AMK）は、1996年から正式に発足した職業志向の高等教育機関で、2006年で29校が認可され、うち18校は地方自治体によって運営され、11は私立である。2005年からはポリテクニクにも修士課程が設置されている。なお、この修士課程に入学するには3年間の労働経験が必要とされる。

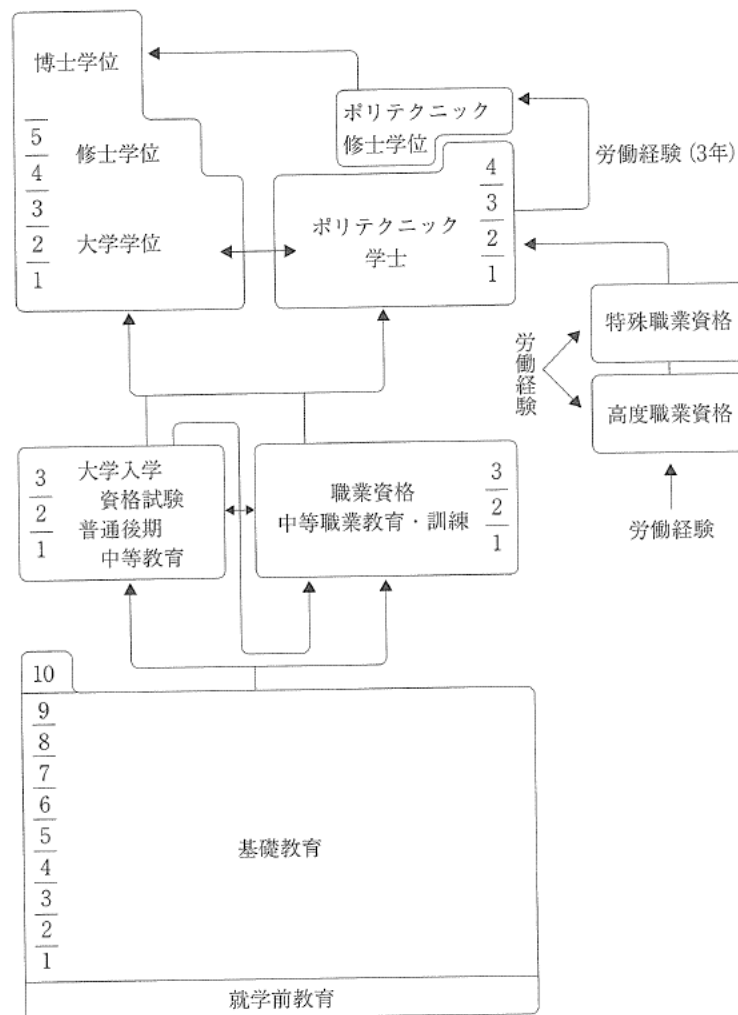
フィンランドにおいて職業高校の地位が上がってきたのは、1990年代から普通高校からも職業高校からも大学やポリテクニクにいけるようになってからであるとされる（“Vocational education and training in Finland”）。

#### VI フィンランドの職業教育・訓練改革の事例——オムニア（Omnia）職業高校——

以下では、最近のフィンランドの職業教育・訓練改革の状況をヘルシンキ市郊外にあるエスポー市のオムニア職業高校を事例として紹介する。

このオムニア職業高校は、この地域にあった7つの職業高校が2011年8月

資料8-6 フィンランドの学校制度



出典：オムニア職業高校訪問時配付資料。

に統合して、1つの職業教育・訓練センターになり、「新しいタイプの共同的職業教育・訓練環境」をつくりだすことを目的に創設された。この地域に10ヶ所の施設を持つが、総計9750名の学生が学んでいる。このセンターには、この地域の中小企業も同じ敷地に同居しており、起業家教育の取り組みをこれらの企業と共同して実施している。そのセンターは3つのセンターからなり、その1つであるオムニア職業高校では4000名の生徒（基礎学校を卒業した生徒や普通高校を卒業した生徒）を対象に、初期職業教育・訓練を実施している。成人教育センターでは、18歳から60歳までの成人（4000名）を対象に職業教育・訓練を行っている。徒弟訓練センターでは、1600名の生徒（若者や成人）を対象に、企業などの労働現場での実習（80%）と理論的学習（20%）を実施している。また、17歳から24歳の失業中の若者（150名）を対象とした「若者の仕事場」という部門を持っており、ここでも職業訓練が提供されている。これらすべての職業教育・訓練は無料であることも重要な点である。

### Ⅶ まとめ

本節では、スウェーデン、ノルウェーとフィンランドの中等教育におけるカリキュラム改革の内容を職業教育やキャリア教育を中心にとりあげた。スウェーデンでは、高校の職業プログラムに大きな変化が起りつつある。その方向は1970年代からの「総合制高等学校」への統合化とは異なる方向を持っている。今後の展開が注目される。ノルウェーでは、2006年にカリキュラムが改訂され、「起業家教育」や「テクノロジーとリサーチ」などの新しい教育内容が導入された。さらに2009年からは「キャリア準備」という教科も選択教科ではあるが、新設された。本章では、その内容の概要を紹介したが、これについての実態をさらに明らかにすることが必要であろう。

フィンランドについては、最近の動向の1つとして、いくつかの職業高校が統合され、より大きな規模の職業訓練センターが創設されている。そこでは、高校生だけでなく、成人や若者、失業者も対象とした職業教育・訓練が無料で実施されていることは注目すべき点である。

## 参考文献

- ・ Matti Kyro, "Vocational education and training in Finland (short description)", CEDEFOP Panorama series:130, 2006.
- ・ Anders Nilsson, "Vocational education and training in Sweden 1850-2008 - a brief presentation", 名古屋大学教育学部技術教育学研究室『技術教育学の探求』第5号(2008年) pp.78-91.
- ・ 本所恵「スウェーデンにおける総合制高等学校における教育課程改革——履修方式の転換に焦点をあてて——」『カリキュラム研究』第17号(2008年) pp.1-14.
- ・ Bjorn Aakre, "Career Preparation and Selection in High School—A Norwegian Context—", 『技術教育学の探求』第7号(2010年), pp.1-19.

## 第2節 中国における職業教育——ハルビン市の事例——

## I 中国の中等教育と職業教育に関する動向

現在の中国では「素質教育」を重視した教育改革が推進されている。本節は、その政策が中等教育と職業教育のカリキュラム編成にどのような影響を与えているかを黒竜江省ハルビン市の高級中学と職業高校を事例にして紹介する。現在、中国全体の中等教育は、前期段階の初級中学と職業中学の上に、後期段階の高級中学、中等専門学校、技術労働者学校、職業高級中学から構成され、専ら普通教育を行う高級中学(成人を除く2522万人)と職業教育を提供する他の3校(成人を除く1874万人)の生徒比率は57.4対42.6である。(『中国年鑑』2009年)

1990年代後半から、中国では、教育改革によって受験偏重の「応試教育」を改める「素質教育」が計画的に推進されている。現在、その方針に従う新教育課程が後期中等教育レベルにおいて黒竜江省を含む全国約半数の省・直轄市・自治区に導入されている。そのうち、高級中学における新教育課程の基準を資料8-7に示す。また、国家教育事業11次5カ年計画(2007年5月公表)によると、2010年までに後期中等教育総在学率80%達成(2006年59.2%)という数値目標が掲げられ、とくに、以下に掲げる9つの主要課題には「①素質教育の全面的推進」「③職業教育の発展の加速、労働力資質の向上」が政策の上位に盛り込まれている。

- ① 素質教育の全面的推進
- ② 9年制義務教育の普及
- ③ 職業教育の発展の加速、労働力資質の向上
- ④ 高等教育の質的向上、高等教育機関の科学技術研究とサービスの向上
- ⑤ 教員の資質向上
- ⑥ 学校管理者の資質の向上と学校における党組織の強化
- ⑦ 現代的な教育体系の構築と学習型社会の構築の積極的推進
- ⑧ 教育における国際協力と交流、教育の対外開放の推進
- ⑨ 経済的に恵まれない家庭の児童・生徒に対する就学支援の強化および教育機会の提供

本節では、黒竜江省ハルビン市における現地調査(2009年9月)を通じて明らかになった後期中等段階の中等・職業教育カリキュラム編成の実情を述べる。

資料8-7 高級中学における新教育課程の基準

学習領域	科目(カッコ内は必要単位数)	選択単位
言語・文学	言語(10) 外国語(10)	地域及び生徒関心に基づき若干のモジュールを設置し、選択履修する。(6単位以上)各課程の標準分類毎に若干のモジュールを設けて選択履修する。
数学	数学(10)	
人文・社会	思想・政治(8) 歴史(6) 地理(6)	
科学	物理(6) 化学(6) 生物(6)	
技術	技術(情報技術、一般技術)(8)	
芸術	芸術、音楽または美術(6)	
体育・健康	体育・健康(11)	
総合実践活動	研究的学習活動(15) 地域奉仕(2) 社会实践(2)	

備考：年間授業時数は40週(別に社会实践1週)。2学期4周期制(1学期=20週、1学期=10週)。卒業要件は、3年間で144単位以上(必修116単位以上)。1モジュールは1週間週4時数(45分授業、2単位)、芸術体育系は1単位18時数。総合実践活動は各学年で必修(個人・グループ別学習)。地域奉仕は3年間で10日間以上。(1単位=20時数)

出典：文部科学省『諸外国の教育動向2007年版』(明石書店、2008年)。

## II ハルビン師範大学付属中学(高級中学)

1958年に設立されたこの高級中学は、現在、黒竜江省の重点高級中学となっている。教師は211名(生徒約3000名)を数えるが、中規模校に相当する。本校の教育課程について、S教務副主任は次のごとくその実情を説明する。

1 理系・文系別生徒のコース分けについて 1年生の終わりに希望を出し、2年生から文・理別に分かれる。その割合はおおよそ文系：理系=1：9である。ハルビン師範大学付属中学の特徴として理系を教える教師のレベルが高く、またブランド大学は理系が多いため、理系の方が生徒数が多いと思



資料 8-8 ハルビン師範大学付属中学 1年1組 時間割表 科目別時数

時限\曜日	月	火	水	木	金	科目別時数	
1時限	化学	生物	数学	語文	数学	語文5	政治2
2時限	語文	物理	語文	語文	化学	語音1	コンピュータ2
3時限	数学	英語	英語	英語	物理	英語5	体育2
4時限	英語	語文	語音	生物	コンピュータ	数学5	音楽1
5時限	歴史	数学	心理	数学	英語	物理2	美術1
6時限	地理	音楽	地理	政治	体育	化学2	心理1
7時限	体育		歴史	美術	コンピュータ	生物2	計33
8時限/9時限	政治/	選択/選択				歴史2	理系11
						地理2	文系17

備考：1時限 7:40～。1時数(コマ) 40分。昼休みは5時限と6時限の間(12:00～13:20)。

出典：訪問調査時配布資料(2009年9月23日)より作成。

資料 8-9 ハルビン師範大学付属中学 2年1組 時間割表 科目別時数

時限\曜日	月	火	水	木	金	科目別時数	
1時限	英語	英語	数学	化学	化学	語文4	政治2
2時限	数学	語音	化学	英語	生物	語音1	技術2
3時限	化学	物理	語文	物理	語文	英語4	体育2
4時限	物理	数学	語文	数学	物理	数学4	音楽1
5時限	地理	政治	語文	歴史	英語	物理4	美術1
6時限	歴史	体育	技術	地理	体育	化学4	計35
7時限	美術	生物	技術	政治	音楽	生物2	理系14
8時限/9時限				選択/選択	クラス会	歴史2	文系15
						地理2	ほか6

備考：1時限 7:40～。昼休みは5時限と6時限の間(12:00～13:20)。2学期制。

「心理」は「心理健康」(後掲)と同類。出典：訪問調査時配布資料より作成。

われる。

2 教育課程(カリキュラム)の編成について 中国には、国家が定めるカリキュラムと地方独自の特色を出すカリキュラム、そして学校独自で決めるカリキュラムがある。

ハルビン師範大学付属中学は、それに従い教師が中心となって編成する。学校の裁量で決められるのは週1回午後の授業、合計4コマである。その内容は様々であり、教師が得意な授業を行い、それを学生が評価し、選択者が多ければ採用される。例えば、パワーポイントの作成、コンテスト参加の仕方、音楽等である。

3 総合実践活動について 毎学期のはじめに、生徒が社会実践を行うコマを決める。何をするかについては、例えば姉妹校として手を結んでいる貧し

い村の学校に行き生徒と助け合って作業をしたり、軍隊へ赴いて車の運転をしたりする。また、学校祭の作品制作などもあり、ハルビン師範大学付属中学祭の今年のテーマは「科学と技術の学園祭」である。その作品の中には特許をとったものもある。

4 教科「技術」の時間について 1年生は必修で通年、2年生は半年間選択科目としてコンピュータの授業をする。ハルビン師範大学付属中学の中にはコンテスト入賞者もいる。そのコンテストの内容はプログラム作成やHP作成などである。

5 教師の研修について 本中学では、月に1回若手の教師の研修班が研究会を行い、お互いに指摘し合っている。また、毎年秋に5年以内の若手教師が全校教師の前で授業を行い、評価を受ける。教育局も資質向上のため近年コンテストを開いている。校内の大きな掲示板には、数学、英語、物理、スポーツなど成績優秀生徒や教員が表彰されていることから、教科指導に熱心な校風が伺われる。とくに、新教育課程基準表における理系文系の科目比(28/40)と比べると、理系重視の教育であると思われる。

重点学校である本中学では、これまでの進学対応と同時に「素質教育」対応のカリキュラムを編成していることがわかる。

### Ⅲ ハルビン市第12職業高級中学(職業高校)

1981年創立の本校では、当初、時計修理、大工の養成、家電修理の3コースが設けられていたが、現在ではコンピュータ関係コースを中心に以下のように多数編成されている。教職員数は106名、生徒数は1350名である(1981年、生徒数500余名)。

- ①コンピュータ応用(9小学科)、②デジタル制御、③建築、④保険理財、⑤物流(管理)、⑥航空(地上業務)、⑦口腔(義歯技術)。

出典：入学案内書(発行日不詳)

以下の説明は、市の教育行政官を交えたR校長インタビューによる。

1 職業教育と普通教育の時間的な割合について 始めのころ(1980年代初め)国の求めとして職業専門科目と普通科目の時間割合は1対1だった。

しかし、今年のカリキュラム改革では、専門科目を増やして普通科目を少し減らすことが要求され、調整後の専門科目と普通科目の時間割合は3対2となった。本校は学生の技能養成を非常に重視している。最初のころは1台しかなかったコンピュータの実習室が、現在14台に増えた。職業教育は大学進学のために行うのではなく、就職のため生徒たちの職業技能をアップして、将来社会に適応できる教育が行われている。

2 この時間割合は、黒竜江省ないしハルビン市の基準によるのか、それともこの学校で独自に編制しているのか 省教育局で規定されている必修科目と選択科目を必ず満たさねばならない。国が定めた基準を達成した上で、学校の状況にあわせて専門科目の時間割合を増やすことができる。私たちの学校に開設された専門に基づいて、一部の専門科目の時間を少し増やしている。コンピュータの専門的な技術者を養成するというのがこの学校の特色であり、専門的な知識を学ぶ時間が他の学校より多い。

3 コース(学科)による修業年限の相違 専門によって修業年限が異なる。3年で卒業できる専門もあれば、2年で卒業できる専門もある。例えば、家電の修理、コンピュータの応用、コンピュータのインターネット等の専門は2年で卒業することができる。しかし、ほとんどが3年となっている。昔は、中学校(下級中学)卒業生のみを募集したが、今は年齢に構わず高校卒業生、社会人、成人が入学できる。

4 (普通)高級中学を出て、大学へ行かずにこちらへ入る生徒もいるのか いる。中学校を卒業して入る生徒は3年で卒業するが、高級中学を卒業してから入る生徒は専門だけを一年間勉強すると卒業できる。……3年制のカリキュラムでは、1、2年目は教養知識を勉強する、3年目は専門を勉強する(会社、工場等へ実習に行く)。2年制の1年目では、教養科目を学び、2年目では専門を学ぶ。

5 ハルビン市の職業高校では、学校外の実習に長い時間をかけているのか 丸ごと一年間ずっと学校の外で実習を行っている。……(受け入れ企業について)、就職サポートセンター(進路室)が担当する。一部の生徒は、学校と契約した企業の工場へ行く。ハルビン市内の受け入れ先にも、また市外の天津、浙

江、広州など各地域の企業へも行く。そこでは、給料がもらえて、その額は就職する大学生より高いぐらいであり、1700～1800元である。技能訓練期間中(仕事)に技能的に熟練した生徒はそのまま当工場に残り、就職する。給料が安いと思った生徒や当該地域の気候や食習慣に慣れなかった生徒たちは、別のところで仕事を探す。

6 生徒の職業選択・就職問題について 職業高校については、昔から国が統一して配分する制度ではなかった。1980年代末から90年代の間に経済が発展すると、職業高校にとっても人気が出て、卒業する前に求人企業から電話がかかってきて、学生をほしいと言っても、応えられないほどだった。今は、確かに金融危機だが、ここ東北地区では外資系の貿易がそんなに多くないので、あまり影響を受けていない。今の就職率は100%ではないが、95%に達している。生徒が自分で給料を選ぶからで、それがなかったら100%になるだろう。

7 職業高校における素質教育(徳知体の全面教育)について 素質教育を本校でも取り入れている。私たちのスローガンは、「人間形成が基本であり、人材養成は二の次である」(「敬生立志、種地創業。也就是说先成人、后成才」)。本校はつねに教科外活動を重視している。毎年、テーマのある活動を行っている。例えば、3月は植樹祭への教師生徒全員の参加。4月の文化祭では、絵などの展示。5月の体育祭では、色々な体育活動。例えば、ラジオ体操試合。今年のラジオ体操試合で、私たちは特別賞をもらった(ハルビン市)。9月の芸術祭では、毎年一回の試合が行われ、個人の才能を引き出す。それから、毎週一回、無料で映画を見る。国内外の映画で、学生たちがとても喜んでいる。12月は歌を歌ったり、楽器を弾いたりなど豊かな内容で個人才能を発見できる試合が行われる。カリキュラムとしては、毎日の第8コマに教科外活動を入れている。例えば、卓球、バスケット、バレーボール、羽毛球などがあって、各クラスが参加する。生徒の身体成長に力を入れている。

職業高校の教育課程は複雑であり、入学する生徒の教育歴や専門分野によって、修業年限が異なる。例示した下級中学出身者向け3年制コース(資料8-10、資料8-11)において、専門/普通の科目コマ数比は30/22となり、国の方針に沿う専門教育重視の傾向が読みとれる。

資料 8-10 ハルビン市第12職業高校 1年1組の時間割

曜日	月	火	水	木	金
1時限	Win インターネット	PH	物理	Win インターネット	VB
2時限	Win インターネット	PH	英語	Win インターネット	VB
3時限	英語	語文	数学	F1	語文
4時限	心理健康	体育	職業生涯	F1	
5時限	数学	F1	PH	VB	
6時限	語文	F1	PH	VB	
7時限	職業生涯		インターネット基礎	インターネット基礎	
8時限	体育		インターネット基礎	インターネット基礎	

備考：時間数（普通科目11、専門科目20）

出典：訪問調査時配付資料（2009年9月24日）より作成。

資料 8-11 ハルビン市第12職業高校 2年1組の時間割

曜日	月	火	水	木	金
1時限	SQL,VF	語文	PH, ホームページ製作	WinServer	Flash, PH
2時限	SQL,VF	数学	PH, ホームページ製作	WinServer	Flash, PH
3時限	PH, ホームページ製作	SQL,VF	語文	英語	政治
4時限	PH, ホームページ製作	SQL,VF	数学	語文	
5時限	WinServer	英語	WinServer	PH, ホームページ製作	
6時限	WinServer		WinServer	PH, ホームページ製作	
7時限	体育		体育		
8時限	英語				

備考：時間数（普通科目11、専門科目18）

出典：訪問調査時配付資料より作成。

調査したハルビン市の高級中学、職業高校では、教科指導を中心としたカリキュラム、とくに理系科目や職業科目（実習を含む）の比重が高い教育課程を組んでいる。それは、徳・知・体などの「素質教育」が実施されても基本的には変わらないという印象を受ける。ただし、「素質教育」に繋がる教科外活動も熱心に取り組む様子が伺える。少ない事例ではあるが、進学志向の高級中学と就職志向の職業高校との関係について、分離的な性格が極めて強い。今後は、重点校に限らず一般の高級中学、職業高校あるいは中等専門学校の場合なども勘案して、中等教育と職業教育のカリキュラムに関する全体的な動向を把握する必要があるだろう。

## 参考文献

- ・陸素菊「社会主義市場経済下の中国の中等職業教育改革——ドイツのデュアルシステム  
の受容過程に即して——」『産業教育学研究』第30巻、第1号、2000年
- ・劉文君『中国の職業教育拡大政策——背景・実現過程・帰結——』（東信堂、2004年）
- ・文部科学省『諸外国の教育動向2007年度版』（明石書店、2008年）
- ・中国研究所編『中国年鑑2009年』（中国研究所、2009年）（同中国年鑑、2008年版）